

がんになっても いきいきと!



いきいき和歌山がんサポート理事長 谷野裕一

53

治療費も相談を

何回も台風が来たり、大変な季節でした。連休が良い天気になり、皆さん運動しましたか？ 僕は4日に仕事があったので、和歌山に帰れず、ハイキング。下りだけでしたが、あちこち痛くなりました。運度不足ですね。さてきょうは、新しい治療とお金の話。

最近話題になったオプジーボは、京都大学の本庶先生が開発された免疫チェックポイント阻害剤。免疫はばい菌から身を守るもの。だから自分の細胞は攻撃しません。自分の細胞を攻撃してしまうのは自己免疫疾患。自分の細胞を攻撃しないようにするための

機能（免疫チェックポイント）を外してしまうのが、免疫チェックポイント阻害剤。うまくいけば、がんも攻撃してくれるけど、自己免疫疾患を引き起こしてしまふことがあります。今までの抗がん剤になかった、甲状腺炎、劇症型糖尿病、下垂体炎、重症筋無力症、神経炎など、頻度は少ないが、なかなか治まらない副作用で身動き取れなくなる場合があります。

2014年9月に皮膚がんの悪性黒色腫で使われ始め、15年12月には非小細胞肺がんが適応になりました。非小細胞肺がんの患者さんがたくさんいるので、財務省は薬剤費を試算し、毎年2兆円足らずになると報告しました。そこで中央社会保険協議会は50%に引き下げを承認し、ことし2月から半額になりました。半額になっても肺がんではひと月に176万円。日本では高額医療制度があるの

で、70歳以上、年収370万円以上の方で、月5万7600円。69歳以下で年収370〜770万円では8万1000円。770〜1160万円では16万7400円。世帯合算や計算式などもあり、全くこの金額ではないですが、大体こんな感じ。そこそこしますよね。この金額以外は国の負担になるので、国の負担も160〜170万円。大変です。

安くし過ぎると、メーカーのもうけが少なくなり開発してくれなくなります。メーカーは、特許が切れる前までに稼いでしまわないと、シエネリック医薬品が許可されて、稼げなくなってしまうます。しかし患者さん側も、効かない、副作用で続けられない状態じゃなくて、副作用が少なく効いているから続けたい場合には、お金で苦しみます。中には、自分が生きてお金を使うのなら、このままでよいという現代版捨身節考のようなことも起こっています。病気が良く

なっても気に掛かることが多いですね。NPO法人いきいき和歌山がんサポートで研修を受けたピアサポーターが皆さんを応援しています。病院でお問い合わせください。がん患者・家族が楽しく暮らせるように活躍しています。ご寄付よろしくお願ひします！

【連絡先】NPO 法人いきいき和歌山がんサポート（メール ikiki@jimotoryoku.jp）、寄付は紀陽銀行湊支店普通預金585222